

かまにし

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

第88号

わがまちの顔

黄色いおじさん

おざき

小崎

えつお

悦男

さん



矢口東小学校の子供達の登下校を見守る「児童誘導員」を一年間務めている、小崎悦男さんをご紹介いたします。いつも着用しているトレードマークの黄色のベストから、いつの間にか「黄色いおじさん」と子供達から呼ばれるようになりしました。

小崎さんは岩手県出身（昭和二十三年生まれ）刑務官として、東京拘置所に勤務し、各地の矯正施設を転任して、宮城県で定年退職を迎えました。刑務官としての長年の功績から平成二五年五月十四日に「瑞宝単光章」の勲章を受けました。その後、息子さんの住んでいる大田区に転居してきました。

何か地域の人の為になる仕事をしたと探していたところ、「いきいき人材センター」の紹介でこの仕事につきました。登校時は七時四五分から八時四五分まで、下校時は一時から一六時まで、子供達の登校日には毎日、所定の場所黄色旗を振りながら、子供達だけではなく四つ角を通る近隣の方々にも、明るく元気な声で挨拶をしながら、安全に誘導している姿が見られます。

年一回の講習会での知識を生かして、新一年生の交通安全ルールの手伝いをしています。また、趣味の区民農園での野菜作り等の経験を生かして、朝顔の鉢植え、野菜作り等で学校行事の手伝いもしています。

このような姿を見て、ある年の六年生の卒業文集では「尊敬出来る人」に小崎悦男さんの名前があげられました。

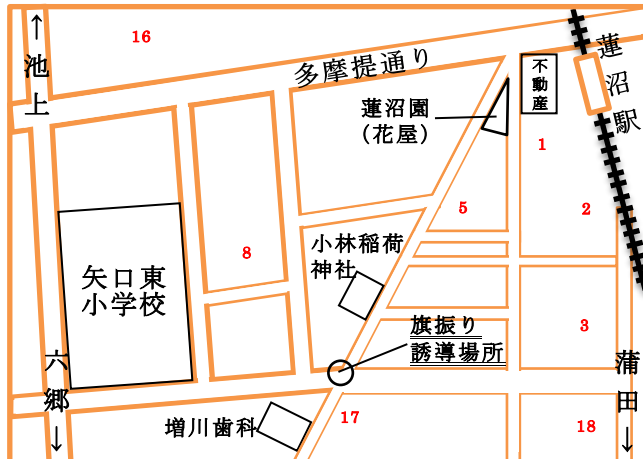
長く続けてこられた秘訣は何ですか、とたずねたところ「子供達から元気の良い、明るい笑顔のパ

ワーをもらっていること。また、近隣の方々とお話が出来ること。」と胸をはって、笑顔でお話してくださいました。二年前に腰を痛めたそうですが、子供達からパワーをもらいながら、お体を大切に続けられることを、祈っております。

（取材 佐藤・北村委員）



丸印の場所で旗振り誘導を行う小崎悦男さん



大田区東矢口三丁目の一部地区

特集「これまでの歴史と未来の姿」

大田区立安方中学校

校舎の歴史

現在の安方中学校の校舎は昭和三六年一月の開校当時に建てられました。木造平屋の家並みの中に突然巨大な白い建物が出現。大田区では二番目である鉄筋コンクリート製の新校舎は、他校から羨ましがられました。



昭和42年以降のものと
思われる校舎の写真

安方中学校のあゆみ

矢口中学校の生徒数の増加により、矢口中学校と御園中学校の生徒が分かれ、一月九日に安方中学校は四六六名の生徒を迎え、入校式が執り行われました。

四月六日には新たに三四六名の新入生を迎え、第一回入学式が挙

行されました。四月七日には校歌が制定（高橋菊太郎作詞・江口夜詩作曲）されました。二七日には校舎落成式・開校式（開校記念日となる）が行われました。



「安方中学校」の住所は「東矢口二丁目」最寄り駅は東急多摩川線「矢口渡」学区の小学校は「矢口小学校」と「矢口東小学校」です。一般に学校の名前は地名が含

まれていることが多く、創立の時代名や故事由来の言葉を校名に持つ学校もありますが、地名に比べれば、はるかに少なく、安方中学校の「安方」は地名です。創立当時の住所は「大田区安方町六十七番地」でした。安方中学校だけではなく、大田区内の区立小中学校の校名はほとんどが地名由来です。ところが、「安方」という地名は現在大田区には存在しません。昭和三十五年に定められた「住所表示法」により住所が再編されました。校名の由来となった「安方町」は昭和四十二年に「多摩川一丁目」「東矢口二丁目」「池上七丁目」「池上八丁目」に再編され消えました。開校から六年で安方中学校の住所は「東矢口二丁目」になりました。現在「安方」の地名は安方中学校以外に、町会や神社などの団体にその名を残すのみとなりました。

安方中学校の教育

安方中学校の教育目的は「学ぶ、鍛える、思いやる」と定め「キャリア教育の視点で、豊かな人間性と未来を創造する力を育む学校」を理想に掲げ、教育活動を充実させておられます。

また、昨年度は「大田区ICT教育推進授業モデル実証校(先進校)」に指定されました。タブレット等

のICT機器を活用した授業や家庭学習をさらに工夫し、対話的で深い学びを追求し、その実践事例を大田区の小中学校に還元し区全体の指導スキルを高めています。それにより生徒の学習意欲を向上させ、効率的かつ質の高い授業・わかる授業・参加する授業を実現しているとの事です。

校章に込められた想い

校章のデザインの意味は『安方中学校の「安」・「中」の文字を图案化したもので、「安」と「中」が組み合わせることで、安方地域の方々の協力のもとに中学校が発展していきますように』との願いが込められているという事です。

また、校章の中央に位置する「女」は女子を表し、「中」は男子を表します。「女」と「中」の文字を組み合わせ、みんな仲良くを意味しています。この心のこもった校章は、標準服のエンブレムにもなっています。



安方中学校の未来

安方中学校は校舎の過半が五十年以上経過しており、機能更新が必要なことから、令和元年度より全面改装に着手しました。

改装にあたっては、教育環境を向上させることを前提として、教育と地域力の新たな拠点づくりを目指しています。



改築工事完成後のイメージ写真

コンセプトとして、『豊かな人間性と未来を想像する力を育む学校』を掲げており、その実現に向けて「基礎・基本の徹底と主体的な学習の展開」や「生徒の安全・安心な生活環境を実現する空間」、「保護者・地域との協働した教育活動の展開」、そのほかにも「体力及び

運動能力の向上」や「学校防災活動拠点としての学校づくり」といった、学校にはどれも欠かせない五つのテーマを持って、設計がなされました。

基本設計について

令和三年十一月時点で「基本設計図面」が作成されました。基本設計について、一部ご紹介いたします。

校舎棟・体育館棟は西側に集約配置され、校庭は広いスペースを確保する計画です。

通行・アクセス面では、「安方モール」といわれる校舎の東側に南門と北門を結ぶ屋外通路が設けられる予定であり、昇降口・地域玄関を安方モールに沿って配置し、学校と地域活動の両立を目指しています。

教育面では、各学年に学習活動を支援する共用部として「学年スペース」が計画され、環境の良い南側への配置が予定されています。また、特別教室をメディアセンター（図書室・PC室）の周囲に配置し、教科を越えた学習がしやすいような配置が計画されています。

環境面では、屋外プールを周辺への圧迫感を軽減するため校庭側に寄せるとともに、周辺との見合いや音の問題に配慮して目隠し壁

で囲う計画です。

工事完了は、令和九年度中を予定しており、5段階のステップで工事が予定されています。

ステップ1は新校舎の建設と、新校舎と既存の建物をつなぐ仮設渡り廊下の建設です。

ステップ2は既存校舎の解体です。なお、ここでは既存体育館や既存プールは解体せず、ステップ1で設けた仮設渡り廊下も解体しない予定となります。

ステップ3は新体育館の建設です。ステップ2にて既存校舎を解体して出来たスペースに、新体育館を建設するようです。

ステップ4で、既存プール・体育館の解体と、ステップ1で設けた仮設渡り廊下の解体が始まる想定となります。

ステップ5では体育倉庫棟を建設し、校庭も整備していく計画となります。

今回ご紹介した基本設計については、実施設計における検討および協議等で変更される場合もあるため、今後の動向には注目です。詳細は「安方中学校 改築だより」にて確認できます。

最後に、今回の記事作成にあたりご協力いただいた安方中学校の佐藤校長先生に感謝申し上げます。
(取材 近藤・高橋委員)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
工程	基本設計	実施設計	【ステップ1】		【ステップ2】	【ステップ3】	【ステップ4】	【ステップ5】
校舎等利用	既存校舎・既存体育館			新校舎・既存体育館		新校舎・新体育館		
引越し等				新校舎へ引越	新体育館利用開始			

工事の全体スケジュール（予定）

ご存じですか？ 矢口消防署五〇周年

矢口消防署（多摩川二丁目）は令和五年四月一日に開署五〇周年を迎えました。これを記念して、八月二三日に日本工学院専門学校蒲田校三号館地下ホールにおいて記念式典が実施され約一二〇名の方々が出席、消防総監、大田区長をはじめ臨席者から祝辞が述べられました。また、江戸消防記念会第七区会員による木遣りや東京消防庁音楽隊及びカラーガーズ隊による演奏演技も披露されました。佐藤署長の式辞を一部紹介します。



消防総監、大田区長他多くの来賓がいらっしゃいました

佐藤署長の式辞要旨

矢口消防署は昭和四八年の開署から五〇年の節目を迎えました。当時の時代背景を少々顧みますと、モーレッツ社員が支える日本の高度経済成長期、交通網や高速自動車道の開通と争わんばかりのモータリゼーションの進展など、日本の社会と経済・産業・工業などの各分野がめざましく急成長しているさなかでありました。こうした社会動向に適応すべく消防行政も多面多様な対応をして参りました。具体的には複雑化する救助事象に対応するため高度な技術を持つ特別救助隊、当時は「東京レスキュー」の愛称で呼ばれたりもしましたが、この部隊が都内全域に拡大配置されたり、石油類などの危険物災害を予防するための法整備やデパート火災を教訓とした消防設備の設置強化と、これらに伴う消防査察の制度整備などが進行している状況でした。

そのような首都東京の消防力強化の一環として矢口消防署は開署されました。

大田区内四つめの消防署としてのメリットとしては管内の皆様との距離の近さがあります。親近感のある消防署として信頼とご支援をいただきながらこの半世紀運営して参りました。私自身着任以来日々感じていることがあります。



東京消防庁音楽隊及びカラーガーズ隊による演奏演技

と変わらぬご支援と叱咤激励を我々にいただけますようお願い申し上げます。

取材者の感想

高い防災意識、良好な町の風紀と少し褒めていただき過ぎていて感じもしますが、火災による死者〇人を現在も続けているということは、消防署だけの努力でできることではないと思います。私達も自らを守るために、できることを頑張っていこうと強く思いました。

（取材 原・大良委員）

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七二二二
電話 373214785

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,501人
	女	30,176人
	計	62,677人
世帯	37,359世帯	

令和5年11月1日現在

「かまにし17」でウェブ検索するとカラー版を見ることができますよ！